

部長	課長	課長補佐	係長	係員
第2回 伊那市・子ども子育て審議会			令和6年10月30日 19時00分～	市役所 多目的ホール
出席者	【委員】 宮坂文子委員、山口涼太委員、川村紗代委員、酒井恵美子委員、飯島香織委員、 下島桐委員、田畑和輝委員、細田紀代美委員、宮原健委員、伊藤のり子委員、 遠山豊委員 (欠席 福永佐枝子委員、春日聡委員) 【事務局】 村松保健福祉部長、宮下子育て支援課長、橋爪子育て支援係長、木下保育係長、 竹松保育施設係長			
配布資料	別紙のとおり			
説明の内容	以下次第のとおり			
1 開 会	保健福祉部長			
2 あいさつ	審議会長			
3 協議事項	進行 審議会長			
(1) こども計画策定に向けた取組について(子育て支援係長)				
(2) 未就学児へのアンケート結果について(保育係長)				
(3) 土曜保育実施園の集約について(子育て支援課長)				
(4) その他報告事項等				
・高遠第2・第3保育園の改築について(子育て支援課長)				
4 その他	次回 令和7年1月頃を予定			
5 閉 会	副会長			
【議事録】				
協議事項(1)より				
意見				
中学生へのアンケートの中で「事業」という言葉や「主に」という言葉がわかりにくい。				
質問				
アンケートによってどういうものが作られるのか。質問が抽象的すぎる。				
回答				
まず今の状況を確認させていただき、計画に反映させていく。ご意見は次のアンケートにつ				

なげていきたい。

質問

高校生になると市は何もしてくれないという印象。区の行事も中学生までが対象。その次は成人式になってしまう。子育ての仕上げの１８歳までを充実させることも視野に今後進めてほしい。

回答

こども計画の中でも、こども・若者の部分をしっかり盛り込んでいきたい。

質問

中学生の親へのアンケートも行い、中学生との乖離があるか見てほしい。若者へのアンケートも、４０代と２０代で同じアンケートで良いのか。親や、若者へも自由記述を追加してもらいたい。

回答

今回は難しいが、こどもと親の関係を調べることも重要だと思うので今後参考にしていきたい。

協議事項（２）より

質問

アンケート結果について、フィードバックが重要。宮田村の医師がなくなって、支援の必要なお子さんの短期の宿泊場所が一つなくなった。そういった子に対するニーズを拾うのは、市ではどこで行うのか。切り出して調査するのではなく、全体の調査に含めて行ってほしい。

回答

来年度こども部が立ち上がるので一元的にそこに対応していく小鳩園や養護学校に通っている方に対しては懇談会で意見を聞いており、施策に反映させていく。

協議事項（４）より

意見

災害時の避難場所になるので、大人が使えるトイレの整備をお願いしたい。

全体を通して

質問

こどもの年齢は3歳以上15歳未満だと思っていた。市の関係は全部そうなるのか。

回答

国のこども基本法で示されたものなので、伊那市独自ということではない。

質問

教職員の負荷が高い。部活動の地域移行など学校現場との意見のすり合わせをお願いしたい。

回答

国のこども大綱でもライフステージごとで大事な視点が示されているので参考にしていく。

質問

支援センターを利用したくないという意見が多いが、利用したいという人数もある程度いる。結果をどのように施策にしていくのか。

回答

現状把握になるが、一部の意見も大事。施設に実際に行ってアンケートを取ることも考えている。

意見

アンケートがすべてだと思わないほうがよい。参考にはなるが、経済状況も変わる。

意見

土曜保育が本当に必要かきちんと確認をしてもらいたい。11時間保育が適切かということもある。

意見

こどもたちにどういった場所が必要かといった調査をしてほしい。放課後に友達と遊ぶ場所がない。こどもの居場所の多様性があっても良い。

【その他】

特になし